

アッシャー家の末裔 (1928)

LA CHUTTE DE LA MAISON USHER

メディア 映画
ジャンル ホラー
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 48分
初公開日 1929/07
公開情報 劇場公開

【解説】

“映画は視覚的な詩”と定義した文人肌のエプスタインが、20年代半ばのアヴァンギャルド派の作品に啓発され作った、E・A・ポー原作の映画化。同作の他に同じくポーの『楕円形の肖像』『リジニア』の内容が加味され、非常にフォトジェニックな独自の表現境地に達している。

ある老紳士を乗せた馬車が妖気漂う沼地を往く。目指すアッシャー邸付近のその荒廃した様子にただならぬ予感を抱く紳士。当主ロデリックは彼の友人だったが、妻マデリーンの肖像を毎日憑かれたように描いていた。画が生気を帯びるほどに衰弱してゆくマデリーン。風が吹き込み床に枯葉が舞い散る広間の片隅で、友に本を読み聞かせるロデリックはふと夢想到に駆られ、昏睡に陥る。そして、衝動的に絵筆を取り、再びマデリーンを描き始める。彼女の顔が瞬間、干涸びた骸に見え、夫の眼が爛々と燃える。絵の完成と同時に妻は倒れた。慌てて友人が医者呼びに行くが、既に彼女はこと切れていた。彼らは葬儀のため、墓地に赴く。ロデリックには妻の死が信じられなかった。亡き妻の弧影に支配されたような館で、嵐の夜、彼はある靈感に囚われる。野辺に置かれた棺の中から純白のヴェールが流れ出であたりをさまよひ、続いて妻が蓋を開けて立つ。そして、彼のもとへ歩み寄る。ロデリックが彼女を抱いたその時、館の随所から妖火があがり、友に引きずられ外へ逃れた彼は、崩れ落ちた館の跡に、燐光が飛び交うのを見た……。若きブニュエルが製作に協力した、前衛的というより純粹映像詩的な、サイレント映画が達成した頂点の一つに数えられる作品だ。

【クレジット】

監督 ジャン・エプスタイン Jean Epstein
原作 エドガー・アラン・ポー Edgar Allan Poe
脚本 ジャン・エプスタイン Jean Epstein
撮影 ルスカ
出演 シャルル・ラミ
ジャン・ドビュクール Jean Debucourt
マルグリート・ガンズ
ピエール・オットー
アルマ